



校長だより(職員編)

呉市立市阿賀小学校
安宗 誠

発達障害の子供に正しく向き合う!

発達障害の子供への接し方「5つの NG」とは、次のようなことなのだそうです。①強い指導をする。②罰を科す。③できていないことばかりを指摘する。④目を見て話を聞くよう強く促す。⑤周りと同じ行動をとるように強いる。

一方、「5つの正しい接し方」とは、次のようなことなのだそうです。①その子供をまるごと理解する。②感情を共有する。③簡潔に説明する。④得意なことを伸ばす。⑤約束を守る。

(「保育士のハッピーなお部屋」参照)

「①強い(厳しい)指導をする」と、恐怖心だけが残り、その後、優しく声かけをしたとしても話を聞かなくなってしまうことがあるそうです。「②罰を科す」と、罰を回避することだけに気が向いてしまいがちになるそうです。「③できていないことばかりを指摘する」と当然のことながら、自己肯定感の低下につながるそうです。「④目を見て話を聞くよう強く促す」と、もともとじっと目を見続けることが苦手な子供もいるため、それが大きなストレスになってしまうこともあるようです。「⑤周りと同じ行動をとるように強いられる」と、それ自体が大きなストレスになり、さらに「周りと同じようにできていないこと」を指摘されると、やはり、自信の低下につながるそうです。

「①その子供をまるごと理解する」とは、得意なことも苦手なこともその子供のもつ特性をまるごと受け止めることです。「②感情を共有する」とは、その子供のうれしい、悲しいなど、心に湧く気持ちを自分のことのように思うことです。「③簡潔に説明する」とは、行う順番にできるだけ短い言葉で説明することです。「④得意なことを伸ばす」とは、褒めて伸ばすことです。自己肯定感を高めることにつながります。「⑤約束を守る」とは、大人自身が子供と交わした約束を守ることであり、子供が納得していったん受け入れた約束であれば、それを妥協せず守らせることでもあります。

以上、「5つの NG」と「5つの正しい接し方」を踏まえた指導を行って参りましょう。

「1年生となかよくなろう集会」6/8



リモートで開会式! <コロナ対策>

距離・間隔をしっかりととりながら! <コロナ対策>